



- 体育会名: 関西学院大学体育会拳法部
- 創部年: 1938年(昭和13年)
- 2025年度会員数: 38人(4年6人、3年6人、2年14人、1年12人)

- 同窓倶楽部名: 関西学院大学体育会拳法部同窓倶楽部  
\* 関西学院同窓会 公認団体

- 同窓倶楽部通称:
  - 設立年:
  - 会員数:

まず、拳法部の歴史を語る前に日本拳法の何たるかを説明します。

そもそも、日本拳法とは1932(昭和7)年に宗家・澤山宗海(本名・澤山勝)が創始した。それまでの格闘技(空手、少林寺拳法等)が型を重視したものだっただのに飽き足らず考案。防具(面、胴、グローブ、股当)を着装して、お互いに自由に打ち合っ拳の突打、足の蹴り、組みつけた場合の投技、関節の逆技など、ありとあらゆる技を繰り出して相手を倒すところを目的としている。防具を着装していることにより、安全にスポーツとして確立された競技だ。

当時、宗家の澤山宗海が関大の出身であったことから、競技も関大から始まったが、関学も38年に拳法部を創立し、澤山宗家の指導のもと練習を始めた。創部以来、85年有余の伝統と歴史を誇り、2008年には創部70周年記念祝賀会を催した。

第1回関関戦は、39年11月19日午後1時から大阪毎日新聞社の本社講堂にて挙行された。双方20人による勝ち抜き戦で、関大の先鋒藍川が胴蹴り、面打ち、胴横打ち等で4人を倒せば、関学の吉村もまた4人を倒し一進一退の試合展開となりった。その後関学の副将広野は関大の高橋副将、美浦大将を破り、記念すべき第1回関関戦は関学が大将を1人残して20対18で勝利を収めた。この試合の記事は翌20日付けの大阪毎日新聞、及び同じ日時の同新聞大阪版に掲載されている。

戦後の48年5月29日、梅田キタノガーデンで行われた第2回関関戦は関大が勝ち、第3回秋期関関戦は14対13で関学の勝利。49年6月4日に大阪・新橋野外劇場で大阪日日賞を掛けて行われた20人の勝ち抜き戦では、関学が大将戦で勝ち優勝した。この試合の記事は同月6日付けの大阪日日新聞に掲載されている。

その後、54年に大阪府立難波体育館で開催された第1回全日本学生王座決定戦では6対5で関学が関大を破って勝利を飾った。このように、拳法は関学、関大の対戦を通じて発展してきた。

57年の第2回関西学生選手権で優勝し、続く58年の第3回大会も連続優勝、60年には堂本主将が率いて第5回で優勝し、勢いに乗って第5回全日本学生選手権でも優勝という戦果を獲得した。

64年には関西学生選手権では惜しくも準優勝ながら、秋に行われた全日本学生選手権では見事優勝。65年にも現 OB 会長の井上晴雄を主将に全日本学生選手権2連覇の偉業を成し遂げた。この時は、4年生は井上主将(4段)をはじめ、澤山副将、渡辺、石川、番と3年生の高田(66年主将)、友政と、出場選手全員が3段というそうそうたる陣容だった。

特に現 OB 会長の井上4段の突き胴は素晴らしい切れ味で見事なものだった。

これ以後の戦績については年表及び活動報告(拳法部ホームページ)を参照して下さい。

□部 部史 編集担当者

佐藤 一生(昭和43年 学部)